

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.24



鮎瀬善太郎 (1855-1928)

12月号は、伊王野出身の政治家・鮎瀬善太郎を紹介します。鮎瀬善太郎は、安政2年に鮎瀬淳一郎(令和4年7月号掲載)の次男として誕生しました。

善太郎の青少年期は、叔父を頼りにして大田原で勉学に励んだといえます。学制発布に伴い明治6年に維新館(旧伊王野小学校前身)が開校すると、善太郎も維新館の教員となり、その後同校の第2代校長を務めています。

善太郎は教員を辞すると、明治14年に27歳の若さで伊王野・大和須・睦家・梁瀬の4ヶ村の戸長(今の首長)となります。同17年からは鍋掛・越堀の戸長を兼務し、その後10ヶ村の戸長を兼ねるなど若くして手腕が高く評価されました。明治19年からは那須郡役所に奉職し、明治32年まで勤めています。

善太郎は、県会議員であった父・淳一郎の地盤を引き継ぎ、明治32年に県議員に初当選すると、途中落選もありながら3期務め、大正11年まで在職し、伊王野の近代化に努めました。県議員時代には、現在の県道76号線・国道294号線の一部(烏山―伊王野)、県道27号線(黒羽―伊王野)、国道294号線(黒田28号線(伊王野―芦野)―黒田原)の道路改修、伊王野村への専売局出張所の設置などに尽力しました。

また、明治43年から大正7年までは、県会議員とともに第5代伊王野村長として村政にあたりました。村長時代には、「伊王野村年中行事」を策定し、経済・教育の振興に力を注ぐとともに、大正5年には村を制定しました。また、伊王野村の大字単位で村有基本財産を形成し、村の経済基盤確立に努めました。

善太郎は昭和3年に亡くなりますが、伊王野村の人々には善太郎の功績を後世に伝えるため、善太郎の胸像を昭和26年に建立しました。この胸像は

現在も伊王野支所前にあります。胸像は、文化勲章を受章している彫刻家・圓鏗勝三による価値あるものであり、伊王野の近代化に尽くした善太郎の功績を振り返りながらご覧いただけたらと思います。

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



鮎瀬善太郎胸像 伊王野支所前に現存

かつこう

年末に大掃除をしようと考えている人は多いのではないのでしょうか。平安時代に始まったといわれる「煤払い」は、屋内の掃除をして神棚をはらい清め、正月の準備を始める年末の行事です。江戸時代になって12月13日に行われるようになったことから、大掃除はこの日から始めると良いとされています。▼掃除は「上から下に、奥から

手前に」進めるのが一般的です。汚れが飛び散る水回りを先に始めたり、玄関から遠い場所から始めるというポイントもあります。また、最近では便利な掃除グッズがたくさんありますし、きれいにしたいけど、自分で掃除するのは大変だと思ふ場所は、家事代行サービスを利用するのも一つの手段です。▼大掃除では、いつも以上にゴミが出ます。きちんと分別すれば、リサイクル・リユースされて新たな資源に生まれ変わります。「分

ければ資源、混ぜればごみ」ごみを減らすことは、私たちが環境のためにできることのひとつだと感じています。▼ある日、ホコリを被った袋が出てきました。中を見ると、娘が小学生の時に使っていた部活の道具でした。ポロポロだし、今後使うことはないだろう。捨てよう。念のため娘に確認すると「捨てないで。思い出が詰まっているの」ごみとして捨てられるはずだった道具は、娘の思い出の品として、今でも大切に保管されています。

こんにちは

赤ちゃん



令和4年11月生まれ

たじり いつおみ
田尻 逸臣くん

いつおみくんは…
お姉ちゃんお兄ちゃん大好き♪

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口 (11月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,729世帯 (-12)	出生	2人 (-1)
・人口	24,039人 (-55)	死亡	39人 (+10)
	男 11,971人 (-32)	転入	76人 (+15)
	女 12,068人 (-23)	転出	94人 (+15)
		その他	無し

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

